

平成 30 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

平成 31 年 4 月 29 日現在

研究課題名	ソ連のコメコン政策とユーラシアの冷戦	
申請者	氏名	所属機関・職
	藤澤 潤	神戸大学大学院人文学研究科・講師

研究成果の概要

本研究の課題は、旧ソ連・東ドイツの文書館史料をもとに 1960 年代から 1970 年代にかけてのソ連の対モンゴル経済政策ならびにコメコンにおける対モンゴル政策協調を分析することで、東側陣営からみたユーラシア冷戦の特質の一端を解明することにあつた。この研究課題を達成するために、申請者は北海道大学図書館所蔵の文献ならびにモスクワの文書館史料を調査・収集した。その結果、1960 年代以降、中ソ対立の激化を受けて、モンゴルとの関係を強化すると同時にモンゴル支援の経済的負担を軽減するために、ソ連指導部が積極的にモンゴルをコメコンに統合しようとしていたことが明らかになった。特に 1971 年に採択されたコメコン総合計画をもとに、ソ連指導部は東欧諸国にモンゴルへの投資拡大を呼びかけた。しかし、東欧諸国からみると、モンゴルは地理的に遠いうえ、基本的なインフラも十分に整備されていなかったため、経済技術支援を提供することは難しかった。しかも、東欧諸国はすでに多くの経済問題を抱えていたことから、政治経済的に見返りの少ないモンゴル支援を拡大することに消極的であった。その結果、モンゴルのコメコン加盟後も、東欧諸国の対モンゴル経済支援はいくつかの象徴的なプロジェクトに限定された。結局、モンゴルのコメコン加盟を通じてユーラシアの社会主義陣営を有機的に統合するというソ連指導部の構想は絵に描いた餅に終わったのである。以上の内容を申請者はモンゴルおよびエストニアの国際学会で報告した。現在は本研究内容をもとに査読論文への投稿を準備している。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）

（学会発表）Jun Fujisawa, “Soviet Attempt for a ‘Eurasian’ Economic Integration? The Soviet Union, the CMEA and Mongolia in the 1960-70s”, The 9th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, National University of Mongolia, Ulaanbaatar, 1 July 2018.

（学会発表）Jun Fujisawa, “The Limits of Socialist Economic Integration. The Comprehensive Program of the CMEA and Joint Investment Projects”, Third Annual Tartu Conference on Russian and East European Studies, 11 June 2018, Tartu University, Estonia.

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

該当なし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。